



中沢かつゆき 通 信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自由民主党



自民党鎌倉市連合支部幹事長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

6月議会

新年度となり、新たな原局との事前調整などを行い、6月議会の準備を行ってきました。大きな課題は、「ゴミ有料化」。現在の鎌倉市の行政計画では、「戸別収集有料化」一体の計画となっています。従いまして、有料化だけを切り離す場合は、行政計画の変更を行わなくてはなりません。しかし、行政計画の変更を行わず、有料化実施の条例と関連補正予算を提出してきました。戸別収集については、「行わない」こともあると担当部長が応えているような状況下で、このような条例と補正予算を提出してきたことに疑問が出ています。また、これまで戸別収集費は約14億円と説明してきましたが、収集事業者からの見積りでは、22億円。人件費等を考えると、翌年度からさらに数億円かかることも聞きます。毎

年22億円以上もの費用をかけて戸別収集を行う必要性を、原局は答弁できませんでした。鎌倉市は、三浦半島サミットに参加し、「自転車半島宣言」とするパンフレットを作成しました。鎌倉市の費用負担しているパンフレットで違法が指摘されています。地図には無いはずの道ものっています。横須賀市長の支持者の法人に随契で発注したことも、横須賀市で問題化。しかも、訂正パンフレットの発注も同じ法人に発注の意向。瑕疵は印刷法人にあると鎌倉市監査委員に確認したら、「慎重さに書く」と答弁。鎌倉市の随契の頻発が問題となっている中、鎌倉市としての対応を求めました。

課題が多い鎌倉。議会が市長の「追認機関」とならないよう、活動して行きます。

ゴミ有料化

現市長となった平成21年、それまでの行政計画である山崎にバイオマスリサイクルセンターを建設して焼却ごみを削減するという行政計画が白紙。平成26年度で今泉クリーンセンター稼働停止という地元町内会との約束がありますので、それまでに約1万トン削減しなくてはならなかったのが、この5年間で。その後、家庭での生ごみ処理機で削減など理解できない削減方法が次々と出され二転三転し、昨年急ぎよ出されたのが「戸別収集有料化」。しかし、市長選直後戸別収集再検討。一般質問前に、収集事業者からの戸別収集費見積りを手に入れ、そこに記載されている金額に愕然としました。それまで14億円とされてきた戸別収集費が毎年22億円。しかも、人手不足でさらに数億円追加が必要とのこと。これ

では、とても事業としてはできません。担当部長もこの事実を認めました。現在の行政計画では、戸別収集有料化は一体。当然有料化費用も戸別収集費と一体となっています。しかし、この莫大な戸別収集費用を隠蔽し、有料化すれば焼却施設建設費基金に積み立てができる、と答弁。削減費や有料化費用などを入れて、鎌倉市の戸別収集有料化による新規費用負担は、毎年約10億円。とても、積み立てなどできる金額ではありません。現在よりも10億円負担増となる計画の一つである有料化には反対です。有料化を目指すのであれば、まず行政計画で戸別収集と有料化を切り離して、再度行政計画とすべきです。関連補正予算は、慎重審査を行うため総務常任委員会でも継続審査としました。

大川小学校

東日本大震災で、安全であるはずの小学校で74名の児童と10名の教職員が犠牲となったのが、大川小学校。同じ年頃の子を持つ親として、大震災直後に訪れることができずにいましたが、3か月後初めて訪ねました。自衛隊員の方が車を降り、祭壇まで歩いてヘルメットを脱ぎ、手を合わせていた光景が今でも涙とともに思い出されます。

3.11、鎌倉市教育委員会では、各学校の状況の確認は「MCA無線が混んでいた」ということで確認していなかったことを1か月後に確認しました。しかし、その後の議会答弁では、「メールや携帯、MCA無線などを使って確認をした」となっています。被災地から離れた鎌倉でもこのような情報混乱が起きていました。石巻市は、当時教育長不在でした。大川小学校の検証委員会は、ご遺族の方の希望で、ようやくできることとなりましたが、実態は事実解明ではなく、アリバイ作りといわれても仕方がないような状況でした。当時文科政務官の義家代議士に何とか動いてほしい、と陳情があり、同じ自民

党神奈川県連所属ということで対応させていただきました。いじめ問題では行動力を発揮した義家政務官がすぐに大川小学校に赴き、検討委員会は一気に動きました。検討委員会の報告書を見ると、なぜ残っているはずの書類がないのか、残すべきメモがなぜ破棄されているのか。多くの疑問が残る報告書です。さらに、「安全」であるべき小学校で、なぜ51分も校庭で待機していたのか。1分も走れば日頃上っていた山があります。低学年でも、数分で山の上に行くことができます。助かった子供の話と食い違う教育委員会の報告。鎌倉市では、災害時の報告書類等保管について確認しました。鎌倉市では、災害時には通信が遮断されることが想定されますが、予め書式をつくり可能な通信手段で報告するようにしています、とのこと。メモについても、保管するよう要望。災害後には、検証委員会設置も、要望しました。

中沢かつゆきの経歴

自転車パンフレット問題

三浦半島観光連絡協議会が発行した「自転車半島宣言」パンフレットに道交法違反写真やあるはずのない道が地図に記載されていたりと指摘され、訂正パンフレットを再度作成すると、横須賀市長が会見や議会で述べました。このパンフレット作成は、横須賀市長の支持者法人への随契。再印刷もこの法人へ発注とも。この協議会には、鎌倉市は今年の4月に加入。負担金は50万円。しかし、パンフレットで使用するデータなどは昨年11月に提出していますが、その時の事務局担当は三浦市。なぜ担当市である三浦市ではなく横須賀市にデータを提出し瑕疵のない協議会が再印刷費を負担するのか明確な答弁ができず、監査委員も「慎重に」と答弁。鎌倉市としては、契約に疑義がもたれることのないよう横須賀市に申し入れることとなりました。

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ副会長
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
県議会議員中村省司秘書
湘南獣医師会 顧問
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)
鎌倉市議2期 総務常任委員長
二階堂在住
事務局：Tel 0467-61-0305
Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？

* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります *



川原湯温泉：JR吾妻線に乗り、「川原湯温泉」駅で下車。そこには、吾妻渓谷を見に、そして多くの湯治客がいました。「草津の上がり湯」と呼ばれる吾妻川沿いに点在する温泉の一つ。1193年源頼朝公が発見したとの伝わり、共同浴場には源氏の家紋である「笹竜胆」が掲げられています。戦後、「ハツ場ダム」建設が持ち上がり、吾妻渓谷を含めてダム湖の湖底となる予定でしたが、吾妻渓谷は一部残すこととなり、川原湯温泉は湖底となることが決定しました。民主党政権誕生でダム建設が急きょ中止となりましたが、工事再開。政治に翻弄された温泉として、その名を遺して平成26年6月30日共同浴場が歴史を閉じ新たな場所で再開します。泉質は、含硫黄-ナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物泉。適応症は、慢性皮膚病、慢性婦人病、きりきず、やけど、虚弱児童、動脈硬化症など。少し山の上に再開する新川原湯温泉に、ぜひ訪れてみたいと思います。

<http://www.kawarayu.jp/>